

脚本アーカイブズ・シンポジウム 2017

脚本アーカイブズ デジタル活用の未来

～デジタル脚本と映像を共に楽しむ方法とは～

第1部 トークショー

「映像と共に脚本をたのしもう」

語り手

池端 俊策 (脚本家)

聞き手

岡室 美奈子 (早稲田大学演劇博物館館長)

第2部 パネルディスカッション

「デジタル脚本と映像アーカイブの可能性」

今野 勉 (演出家、放送人の会会長)

福井 健策 (弁護士、日本大学芸術学部特任教授)

高野 明彦 (国立情報学研究所教授)

丹羽 美之 (東京大学大学院情報学環准教授)

司会

吉見 俊哉 (東京大学大学院情報学環教授)

2017年

3月9日(木) 13:30 - 17:00 (13:00 開場)

早稲田大学 小野記念講堂

主催：一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

共催：文化庁、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

後援：国立国会図書館、放送人の会、NHK、放送番組センター、放送文化基金

入場無料

定員200名(事前予約制)



一般社団法人
日本脚本アーカイブズ
推進コンソーシアム

脚本アーカイブズ・デジタル活用の未来

～デジタル脚本と映像を共に楽しむ方法とは～

今年度も脚本アーカイブズをめぐり様々な研究が展開しています。国立国会図書館で公開中の脚本 2万7千冊のうち約3000冊がデジタル化されました。さらにデジタルコレクションに掲載中の約30作品が全国700館以上の図書館送信参加館にてデジタルで見られるようになりました。脚本のデジタルアーカイブサイトの第3弾として「永六輔バーチャル記念館」が7月7日 Web上でオープン予定です。脚本アーカイブ活動を進める中、映像や撮影当時の写真など貴重な資料が発見されます。脚本アーカイブの未来とともに過去の貴重な映像・資料の保存を皆様と共に考えたく、以下のようなシンポジウムを開催いたします。

《プログラム》

[挨拶] 文化庁、国立国会図書館 ほか

第1部 トークショー

『映像と共に脚本をたのしもう』

放送番組は出演者、演出家、プロデューサー、音楽、美術、技術という様々なスタッフが一つになって創り上げる総合芸術です。オーケストラの指揮者のように演出家がタクトを振る楽譜が「脚本」です。映像を参照しながら脚本(ホン)ではどのように描かれているのか？

「夏目漱石の妻」「太平記」「親父の背中」の脚本家を招き、映像と脚本を対比しながら舞台裏を語っていただきます。

語り手 池端 俊策 (脚本家)

聞き手 岡室 美奈子 (早稲田大学演劇博物館館長)

第2部 パネルディスカッション

『デジタル脚本と映像アーカイブの可能性』

1980年以前、ビデオが上書き使用され残存している映像が少ないのが現状です。さらに生放送時代には番組を保存するため、テレビの画面を16ミリのフィルムで撮影する「キネコ」という媒体を使用していました。現在、放送局に残っていない映像が「キネコ」や家庭用ビデオで脚本家や出演者・スタッフの元に個人的に残されています。脚本のアーカイブズ活動と共に、映像アーカイブの可能性について、様々な視点から討論いたします。

パネラー 今野 勉 (演出家、放送人の会会長)

福井 健策 (弁護士)

高野 明彦 (国立情報学研究所教授)

丹羽 美之 (東京大学大学院情報学環准教授)

司 会 吉見 俊哉 (東京大学大学院情報学環教授)

【お申し込み】 ※ご予約が必要です

日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム HP
参加フォームから

<http://www.nkac.jp/>

TOP> シンポジウム申し込み

FAX ▶ 03-5210-7021

①～③を明記の上、お申し込みください。

① イベント名

② 氏名 (ふりがな)

③ 電話番号・ファックス番号

◎ 電話でのお申し込みも受け付けております。

【会場のご案内】

早稲田大学 小野記念講堂

〒169-8050 東京新宿区西早稲田 1-6-1

・東西線「早稲田」駅 徒歩7分

・都電荒川線「早稲田」駅 徒歩5分

・高田馬場駅より早大行きバス

→ 終点「早大正門」下車 徒歩10分



※駐車場はご利用いただけません。公共交通機関をご利用ください。

【シンポジウムについてのお問い合わせ】

一般社団法人

日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム事務局

東京都千代田区四番町 4-9 東越伯鷹ビル 5階

TEL 03-5210-7029

Email nkac@hosakkyo.jp

このシンポジウムは、文化庁委託事業「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究～放送番組の脚本・台本のアーカイブ構築に向けた調査研究～」の一環として開催しております。